

## 第 81 回 入学式 校長のこたば

春らしい柔らかな日差しが感じられる季節になりました。このうらかな春のよき日に、242 名の新入生を上溝高校第 81 期生として迎えることができ、教職員一同、嬉しく思っています。

改めまして、新入生の皆さん、入学おめでとうございます。保護者の皆様、お子様の高校ご入学、心よりお祝い申し上げます。

本日は、PTA 会長関島茜様をはじめ、学校運営協議会委員の皆様、本校同窓会鳩友会の皆様をご来賓としてお迎えし、第 81 回入学式をこのように盛大に挙行できますことは何よりの喜びです。

さて、高校入試を経て、晴れて本校の一員となった皆さん、まずは数ある高等学校の中から上溝高校を選んでくれたことを嬉しく思います。上溝高校は、今年で創立 115 年を迎え、長い歴史と伝統を持つ学校です。敷地のあちこちに長い歴史を感じさせる石碑や記念樹がありますので、時間のある時に校内をゆっくり散策してみてください。そして、昨年行われた学校説明会の場で、上溝高校の魅力について、「学校生活に安心感があり、思い切り何かに挑戦できる、そして自分の可能性を広げることができる」とお伝えしたのを覚えていますか。今日から皆さんはその一員です。誰もが安心して学校生活を送ることができるということは、学校にとって最も大事なことです。安心感は挑戦と成長の土台となります。多様性を受け入れ、互いを理解し、尊重するという「共生の精神」をこの上溝高校でしっかりと身に付けてください。その第一歩はあいさつです。明日からと言わず、今日から周囲の人に笑顔であいさつしてみてください。

さて、皆さんの高校入学に際して 3 つのことをお願いしたいと思います。

一つ目は、よく学んでください。皆さんは、これまでの学習の中で、たくさんのことを理解し、知識として身に付けてきました。しかし、高校での学びにおいて、知識を身に付けることはゴールではなくスタートです。身に付けた知識は活用しなければなりません。また、高校での学びでは、すべての問いに必ず答えがあるとも限りません。答えのない問いに答えを出さなければならないのです。前例がある訳ではない、誰かが答えを教えてくれる訳でもない。どうすれば答えを出することができるのだろうか。そう考えるだけで興味が湧き、楽しくなってきましたか。本来学びとは楽しいものだと思います。確かな知識を土台にして、教科の壁を越えて、「答えのない課題の解決方法を探る」という探究的な学びにぜひ挑戦してみてください。

二つ目は、友人を大切にしてください。自分が成長するためには他者の存在は不可欠です。言ってみれば、友人は自分自身を磨く砥石のようなものです。時に励まし合い支え合い、時に激論を戦わせ、そんな一つ一つが皆さん自身を磨き、成長させるのです。損得を抜きにして、対等に語り合える友人の存在は人生においてとても貴重です。そんな切磋琢磨し合える友人を高校時代に一人でも二人でも見つけてほしいと思います。

三つ目は、心身を鍛えてください。社会が複雑化、個別化し、あふれるほどの情報に囲まれ、様々なストレスが人々に押し寄せる時代です。そんな時代をたくましく生き抜くには心身の健康が不可欠です。体を鍛えることはもちろんのこと、複雑な人間関係の中でも心をすり減らすことのないよう精神も鍛えてください。他者と積極的に意思疎通を図り、たとえ互いに意見が違っても合意できる点を

見出していく、そんな前向きなコミュニケーションを試みてください。

今、世の中は、自分あるいは自国の利益を優先するあまり、意見の対立が生まれ、分断が広がっています。『価値観の異なるもの同士が共存することは極めて難しい』と思わせる事例が世にあふれています。しかし、異なるものとの出会いとは本来、相手に興味を持ち、相手を理解しようとする気持ちさえあれば、互いの視野を広げ、成長するチャンスとなるはずです。その出会いをプラスにするかマイナスにするかは皆さん次第なのです。高校生活のスタートに当たり、自分を大切に、それと同じくらい他者を大切に、この上溝高校を皆が安心できる居場所にしてほしいと思います。

保護者の皆様、私たち上溝高校の教職員は、皆様が学校に寄せる期待と信頼に応えられるよう、一丸となって教育活動に取り組んでまいります。しかし、教育には、ご家庭の協力が不可欠です。様々な情報を共有して、お子様の未来をともに考えていきたいと思えます。ご理解ご協力をお願いいたします。

最後に、81期生の皆さんの輝かしい高校生活を祈念して入学式のあいさつといたします。

令和8年4月7日  
神奈川県立上溝高等学校  
校長 林田裕之